

II 障害者支援施設 久喜けいわ

平成27年度事業計画に基づいて以下の事業を運営しました。

運営に当たっては、社会福祉法人が運営する事業としての責任や使命を自覚し、障害のある人を支える拠点施設として、自立を促進する機能、セーフティネットの機能、福祉人材を育成する機能等、総合的に役割を果たすことに努めました。

【生活介護・施設入所・就労移行・就労継続B型共通事項】

1 定員の充足

○現員と利用率

平成28. 3. 31現在

| 事業名 | 定員 | 現員 | 利用率 |
|--------|-------|-------|--------|
| 生活介護 | 定員67名 | 現員70名 | 96.1% |
| 施設入所支援 | 定員54名 | 現員54名 | 97.0% |
| 就労移行支援 | 定員15名 | 現員14名 | 66.9% |
| 就労継続支援 | 定員32名 | 現員35名 | 99.6% |
| 短期入所支援 | 定員 6名 | | 105.0% |

- (1) 平成27年10月31日、男性1名が敗血症のため亡くなりました。前年度より巨大結腸症を患い、約半年間入院の状態でした。家族と終末期の支援に関して、どのような支援を行うか話し合いを重ねました。最終的に、常に治療が行えるよう療養型の病院への転院を決めました。話し合いの中で、家族・職員ともに、何が最良の判断なのか悩みました。今後、高齢化を迎えるにあたり、どのように支援していくのか考えさせられました。

2 支援体制の整備

| 職種 | 人数 | 備考 |
|---------|----|---------------------------|
| 施設長 | 1 | |
| 事務局長 | 1 | |
| 総務課長 | 1 | |
| 事務員 | 6 | 障害者雇用1名 |
| 清掃、営繕 | 2 | |
| 洗濯、清掃 | 2 | 障害者雇用2名 |
| 主査 | 1 | 支援課1名 |
| 主任生活支援員 | 5 | 生活介護・施設入所4名、就労移行・就労継続B型1名 |
| 生活支援員 | 38 | 生活介護34名 就労移行1名 就労継続B型3名 |

| | | |
|-----------|----|--------------------|
| 職業指導員 | 5 | 就労移行 2名 就労継続 B型 3名 |
| 就労支援員 | 1 | 就労移行 1名 |
| 目標工賃達成指導員 | 1 | 就労継続 B型 1名 |
| 看護師 | 2 | |
| 管理栄養士・栄養士 | 2 | |
| 計 | 69 | |

3 会議の充実

- (1) 職員会議では利用者の処遇に関して、支援員・看護師・栄養士・総務と連携し、課題点について解決策を模索しました。
- (2) ケース会議では支援プランの進行状況の確認と共に現状の課題を整理し、問題解決への手がかりを導き出すことに努めました。

4 利用者へのサービス

- (1) 個別支援計画に沿って、個人を尊重した支援の実施
 - ア サービス管理責任者が中心となり、担当職員と協力して個別支援計画を作成しました。本人の希望や要望を丁寧に聞き取り、言葉が話せない人には、ニーズをアセスメントから導き出し、家族の意向も聞きながら計画に反映させました。
- (2) 虐待防止・権利擁護の徹底
 - ア 虐待防止に関する内部研修を行い、虐待とはどのような事なのか、なぜ起こるのか、どのようにして防ぐのかを全体で考えました。研修では様々な意見が飛び交い、権利擁護について再認識させられました。
- (3) 機能訓練棟の活用
 - ア 7月に機能訓練棟（防災拠点スペース）が完成しました。今まで室内に広いスペースがなく、グラウンド以外での運動はできませんでした。今年度は機能訓練棟ができたおかげで、室内でも思い切り体を動かせるようになりました。特に天候が悪い時期は外に出る事ができず、ストレスが溜まってしまう人がいました。機能訓練棟が完成してからは天候を気にせず、体を動かすことができるようになりました。
 - イ 利用者の特性に合わせながら2通りの使い方を考えました。機能訓練として高齢な人には、足の筋力トレーニングとしてウォーキングマシンや自転車漕ぎ、階段を使い、無理のないよう体を動かしました。またレクリエーション運動として、楽しみながら体を動かせるようにバスケット・サッカー・野球等のゲーム的要素を含む活動を取り入れました。ゲーム的な感覚を楽しめる利用者には効果があり、意欲的に運動を行うことができました。

(4) 健康管理の充実

- ア 啓和会と久喜市歯科医師会共催のもと実施した歯科保健事業により、9月に歯科ブラッシング指導、3月に歯科の講演会を行いました。歯科医師や衛生士より指摘されたアドバイスをもとに、普段の口腔衛生に生かしました。
- イ 管理栄養士と協力して、栄養ケアマネジメントとしてスクリーニング4回、アセスメント4回、ケア計画作成1回を行いました。普段の食生活を見直し、栄養管理に努めました。
- ウ 健康診断を6月、11月に実施し、必要に応じて治療・経過観察を行い、疾病等の早期発見に努めました。
- エ 感染症対策としてインフルエンザ・ウィルス性胃腸炎の感染防止に努めましたが、2月中旬よりインフルエンザの感染が拡大し、2週間で約3割の利用者が感染してしまいました。また支援を行っていた職員も感染してしまい、感染防止対策の見直しを行う必要があります。

(5) 余暇活動の充実

- ア クラブ活動において、ボランティアの協力で順調に活動ができました。クラブ活動を行う中で、地域住民との関わりや取り組みの達成感を得ることにより、多くのことを学ぶことができました。
- イ 個人の希望に合わせて外出を企画し、バスや電車などの公共交通機関も利用して出掛けました。
- ウ 利用者からの「みんなで旅行に行きたい。」という声から、日帰りバス旅行を計画しました。以前は一泊での旅行を実施していましたが、近年は大人数で出掛ける機会はありませんでした。交通手段の問題、食事の問題、トイレの問題とさまざまな課題に対して検討し、より良い案を考えました。協議の結果、全員一度に行くことは難しく、関東近郊（茨城潮来、茨城大洗、東京浅草、群馬イチゴ狩り）へ、4回に分けて行くことになりました。バスの中では景色を眺めながら利用者同志の会話が弾み、バスを降りるとゆっくり歩く人に手を差し伸べ、他者を気遣う様子も見られました。帰ってきてからも「楽しかった、また行こうね。」等の声も聞かれ、外に出掛ける大切さを改めて知るきっかけとなりました。今後は自治会や家族会とも連携しながら、検討していきたいと思えます。

5 職員研修

- (1) 主任が中心となりOJTを実施しました。新任職員に対しては、2ヵ月の目安で集中的に基本業務（食事、排泄、服薬、着脱、入浴などの支援）を学べるようプログラムを組みました。
- (2) 内部研修は、新任向け施設長講話・安全運転研修・虐待防止研修・事例報告会・歯科保健研修等を実施しました。外部研修は、権利擁護・相談支援従事者・人事関係・リスク関係などに参加し、他事業所職員と意見を交わすことでスキルの向上を図りました。

6 危機管理及びリスクマネジメント

- (1) 地震を想定して、家具の転倒防止策や避難経路の確認を行いました。今後は歩くことが難しい人が迅速に避難するための経路や設備を検討していきます。
- (2) 降雪時の湯散布や凍結防止剤散布による除雪対策を行い、転倒防止などの効果がありました。
- (3) 預り金管理は支援課と総務課の連携を密にし、収支報告も毎月行いました。

【生活介護・施設入所支援】

1 基本サービスの充実と生活の質の向上

- (1) 利用者の毎日の様子を観察し、看護師・栄養士と協力して支援を行いました。特に健康面での支援が必要な利用者には、個別の健康観察記録を作成し、変化があった場合は速やかな対応を行いました。
- (2) 作業が苦手でなかなか参加できなかった人に対して、作業工程を見直して目標を明確にしたところ、作業に参加できる時間が増えました。
- (3) 生活棟では、居室のカーテンを色鮮やかなロールカーテンに変更し、自立棟では相部屋でも個人のプライバシーが保たれるよう居室の中央に仕切りを設けました。

2 安心、安全な生活環境作り

- (1) 定期的な棟内の不備のチェックを行い、発見次第速やかに営繕担当へ報告し、修繕等の対応を行いました。
- (2) 身体的に介助を要する人が増えており、今後の高齢化も見据え、他法人の介護施設を見学しました。トイレ・浴室・食堂など参考になる部分が多く、今後の大規模修繕に生かしたいと思います。
- (3) 作業療法士からアドバイスをもらい、利用者に合わせて支援の方法を実施しました。車椅子の座面や手すりの高さを変えたところ、体への負担が軽くなり動きがスムーズになりました。

3 意思決定の支援

- (1) 利用者の意見や要望を聞くために定期で自治会を開催し、いろいろな議題について話し合いを行いました。夏は食中毒や熱中症、冬は感染症や火事についてなど、生活に密着することについて議論しました。
- (2) 給食会議を月に1回開催し、利用者が栄養士や委託調理業者と共に話し合いました。好きなメニューや調理の工夫など意見を出し、食事に反映させました。
- (3) 自分から想いや悩みを言葉で表せない人には、手紙や文字盤も使用してコミュニケーションを深め、職員との信頼関係を築きました。

4 高齢化、重度化への支援

- (1) 日々の様子を観察し、支援員だけでなく医師・看護師・栄養士など各部署との連絡を密に行い、健康の維持に努めました。
- (2) 特に医療的な支援が必要な人には、呼吸・食事・排泄・発熱・発汗など、基本的な健康の異常について、注意深く観察を行いました。便秘の人には、腹部マッサージや運動を取り入れました。呼吸器疾患の利用者には吸入処置を取り入れたところ、痰が出しやすくなり呼吸が安定しました。
- (3) リハビリ的な活動として機能訓練棟を活用し、スクワットや腹筋、歩行訓練を行いました。バスケットやバドミントンなど遊びながら体を動かす取り組みは、利用者に好評でした。

5 他害のある人への支援

- (1) 本人の障害特性を理解し、生活場面や活動場面の調整を行いました。不安や不快感を減らすことで一定の予防はできましたが、共同生活上の物理的・人的環境の調整は引き続き課題となっています。

6 罪を犯した障害者への支援

- (1) 前年度 3 月から定着支援センターの紹介で、2 人目になる定着利用希望者の受け入れ、保護司や矯正施設職員、ケースワーカーなど関係者との定期面談や支援会議を行い、関係者が連携し支援を行いました。慣れない環境の不安から粗暴行為が続きましたが、アセスメントを継続し、ポイントを捉えた支援を行うことで落ち着いて生活できるようになりました。

7 地域移行 地域生活者のバックアップ

- (1) 自立棟の男性利用者 1 名が定期的にグループホームの体験利用を行いました。移行には至りませんでした。
- (2) 地域生活者のバックアップとして、生活支援員、看護師、栄養士、事務員がそれぞれの専門性を生かし、例年同様に必要な協力を行いました。生活支援員の緊急な対応を要する事柄はありませんでした。

【就労移行支援】

1 新規利用者の開拓と利用率の維持

- (1) 月1回、支援センターと就労合同会議を行いました。定員の充足を目指し、利用者の情報や空き状況を確認し、補充の調整等を行いました。
- (2) 施設の見学者を11名受け入れ、内8名が就労移行の契約に結びつきました。

2 就労支援

- (1) 一般就労で必要な挨拶・身だしなみ・報告・連絡など、日常作業や余暇活動などを通して身に着けました。

- (2) 自主通勤をしている利用者には、電車やバスの乗り方やマナーが身に着くよう職員が付き添って支援を行いました。
- (3) 計8名の利用者が一般企業での短期訓練、委託訓練、トライアル雇用を行い、就職に向けての意識と意欲の向上を図りました。
- (4) 就職に対する不安が大きく、消極的になってしまう利用者や保護者に対しては、時間をかけて何が問題なのか一緒に考え、不安要素を克服できるよう努めました。時間をかけて説明し、就労継続B型から就労移行支援への利用変更を2名の利用者が行いました。

3 就労支援センターとの協働と就職活動の促進

- (1) 受注作業や職場実習を通じて、作業能力（理解力、適性、作業態度など）や社会性（挨拶、言葉遣い、報告・連絡・相談、協調性など）をアセスメントしました。
- (2) アセスメント結果をもとに仕事への適性を評価し、支援センターと共働しながら、本人に合った職場の開拓に努めました。
- (3) 就職に向け、ハローワークの登録手続きや埼玉障害者職業センターでの重度判定手続き、就職面接に際しての就労支援員による模擬面接や実技の練習を行い本番に備えました。

平成 27 年度就職先一覧

| 会社名 | 仕事内容 | 就職者 | 所 属 |
|----------------|------|-------------|------|
| (株)吉野家ホールディングス | 食品加工 | 男性 (21 歳) | 就労移行 |
| (株)ネアス | 軽作業 | 男性 (19 歳) | 就労移行 |
| 越谷金属(株) | 製造業 | 男性 (19 歳) | 就労移行 |
| (株)ネアス | 軽作業 | 女性 (21 歳) | 就労移行 |
| (株)グリーンクロス | 洗浄作業 | 男性 (19 歳) | 就労移行 |
| 合 計 | | 5名(男性4、女性1) | 移行5名 |
| 就職者平均年齢 | | 19.8 歳 | |

4 就職者に対しての継続的な支援

- (1) 5名が就職し、職場定着に向けた巡回支援を法人内外のジョブコーチと連携して行いました。就職から6ヶ月を超え、就労支援センターへ支援を引き継いだ人に関しても、不定期ながら巡回支援を行い、安心して仕事ができる体制を作りました。
- (2) 残念ながら就職者5名中2名が企業の倒産や支店の閉鎖により退職を余儀なくされました。

【就労継続B型支援】

1 日中活動の充実

- (1) 個人に合った作業種を選び、作業意欲の停滞を防ぎました。作業工程も分かりやすく整理し、目標を明確にしたところ、作業への意識が高まりました。
- (2) 味噌や餃子作りでは、料理に興味のある利用者を中心に作業を行ったところ楽しみながら参加し、意欲が高まりました。
- (3) 毎月1回、土曜日開所を実施しました。各種活動を企画し、社会経験を広げられるよう努めました。

平成 27 年度 土曜日開所 活動一覧

| | 移 行 | 継 続 |
|-----|---------------|-------------------|
| 4月 | 潮干狩り | 菖蒲公園散策 |
| 5月 | 上野動物園 | 運動会、お茶会 |
| 6月 | 弓削多醤油工場見学 | ゲーム、DVD鑑賞 |
| 7月 | 美術館見学 | 防災学習センター |
| 8月 | 盆踊り | |
| 9月 | ヤクルト工場見学 | さいたま水族館 |
| 10月 | バーベキュー | 手芸、工作、調理実習 |
| 11月 | 啓和まつり | |
| 12月 | 茨城県自然博物館 | カラオケ、東武動物公園、ワイナリー |
| 1月 | 東京スカイツリー、横浜観光 | ビンゴ大会、DVD鑑賞 |
| 2月 | お菓子作り | イチゴ狩り |
| 3月 | 日帰り旅行（群馬県） | |

2 受託作業の確保と作業工賃の向上

- (1) 作業工賃の向上を目指しましたが、目標工賃には届きませんでした。今後は作業工程の見直しや、味噌・餃子の販路拡大を検討し、工賃の向上へと繋げていきたいと思えます。

平均工賃の推移(過去3年間)

| 年 度 | 平均工賃(円) | 工賃総支給額(円) | 支給対象延べ人数 |
|----------|---------|-----------|----------|
| 平成 25 年度 | 12,504 | 4,401,292 | 352 人 |
| 平成 26 年度 | 10,500 | 4,262,899 | 406 人 |
| 平成 27 年度 | 9,109 | 3,816,546 | 419 人 |

3 けいわ味噌、餃子の品質改良と販路の拡大

- (1) 地域住民との協働による、地元で根ざし手作り感を生かした復刻版味噌と、学校給食等に卸している従来版味噌の2品目を生産・販売しました。年度初めに味噌の売れ行きがよく、8月以降に品薄の状態になってしまいました。この経験を生かし、今までのデータから生産量と出荷量の試算を行い、次年度に向けて取り組みたいと思います。

【重点事項】

- 1 新設された機能訓練棟を、年度後半から利用者の体力向上や機能維持の運動、余暇活動の場として使用しました。さらに、盆踊りや啓和まつりの会場の一部として、9月には福祉活動に熱心な歌手のコンサート会場、3月には法人全体の職員研修の会場として有効活用しました。
- 2 久喜市の防災訓練や施設での防災訓練に、たくさんの利用者が参加することができました。消防署員から直接話を聞き、いかに火事が怖いかを学ぶことができました。
- 3 ケアマネジメントの手法に沿った利用者支援を行うよう努めました。サービス管理責任者が中心となり、職員へアセスメント・プラン作成・モニタリングの一連のサイクルを習得できるようOJTを行いました。
- 4 食事・排泄・着衣・睡眠・歯磨きなど、生活場面での支援を主任が中心となり職員への指導を行いました。直接支援では、丁寧かつ細やかな技術について生活支援マニュアルを活用し、ポイントを押さえた支援の向上を図りました。
- 5 今年度は男性利用者1名がグループホームの体験利用を行いました。他利用者1名が、グループホームの雰囲気だけでも体験しようと、月に数回夕食をグループホームで食べる取り組みも行いました。いつもは大人数での食事ですが、4～7名でのゆったりと家庭的な雰囲気です食事をすることができました。
- 6 職員の育成や能力開発を目的とした職務点検活動を試行しました。職員との面談の中で、現場での問題や悩みなど聞くことができ、解決策を一緒に模索することができました。